

逆行

電柱から電柱へと電線を伝う蛇
ねじり込むように円筒へと消えてゆく「自己」

誕生の時へと近づくため
とぼとぼと坂を上る

細く、丈低い草が
その影とともに小刻みにふるえている

映像としての眺望は次第に広がってゆく
しかし、私の目はそれを平板にしか捉えない

あの蛇はまとわりつくように
常に、鏡像のように動きを共にする

退化した五感の抜け殻が
関係する意味というものを辛うじて維持している

魅惑に満ちた「放棄」という選択
委ねる、という行為と同義であろう

物質であることの必要性は消滅し
単なる抽象的な揺らぎだけが残る

胚細胞がうずくまるようにして器官を形成するように
私はうずくまり、誕生へと逆行する

(2009.12.1)